

出向く営農レポート

～目標達成に向けて～



中部営農センター
伊藤 日菜

今回、令和5年度から一本ネギの栽培に取り組み始めた杉浦婦美枝さんの圃場を訪問しました。杉浦さんはアグリスクールの初代卒業生で、現在は主に日進園芸センターや学校給食、インショップと幅広く出荷されています。中でも、学校給食の出荷に意欲的で、当JAの主要三品目として取り組み始めているネギの栽培提案をさせていただいたところ「日菜ちゃんが一緒にやってくれるならやるよ!」と快諾していただきました。

訪問した際は収穫真最中で、軟白部分を傷つけないよう一本一本丁寧に手作業で行っていました。

5月に苗を配布し、梅雨・猛暑を乗り越えて12月になってようやく収穫を迎えるました。昨年の夏は例年にはないほど暑く、害虫や雑草で本当に苦労しました。「梅雨越し」の時にはネギが溶けてしまふ恐怖を体感し、シロイチモジヨトウがネギの葉身内部に入り込み、農薬を散布しても防除しきれず、二人で何度も頭を悩ませました。栽培期間の長いネギ栽培において肝となるのは雑草対策で、定植後に「トレファノサイド乳剤」を使用しました。しかし、完全に除草剤で防除しきれたわけではなく、杉浦さんは夏場の暑い中、中耕と除草をコツコツと行っていました。「初期の作物の生育を妨げないよう、また土寄せ後のネギの株元・地際からの雑草防除対策は欠かせなかった」「処理方法のコツを掴んだので来年はもっと上手く効かすことができそう」と振り返ります。

日進市学校給食センターからは、「太くて立派なネギで調理がしやすく美味しかった」「来年はもっとたくさん使いたい」とお褒めの言葉をいただきました。給食センターの皆様に感謝とともに、5月からの苦労が報われたと達成感を感じました。今後も出荷は2月まで継続し、給食や直売所へトータル2,000kgの出荷を見込んでいます。杉浦さんは、「高品質な軟白部分30cm以上のネギで反あたりの収量増加」を目標にすると意気込んでおります。今後もより良いネギが届けられるよう出向く営農活動に取り組んでいきます。

雑草対策

トレファノサイド乳剤

- 使用量: 200~300L/10a
- 使用方法: 全面土壌散布
- 使用時期: 定植後雑草発生前(但し、収穫30日前まで)
- トリフルラリンを含む農薬の総使用回数: 2回以内



※使用に際しては製品ラベルの記載内容に従ってご使用ください。

杉浦さんにインタビューしてみました!!

Q アグリスクールに参加したきっかけは何ですか?

A もともと家庭菜園をしていて基礎的な栽培方法を学びたいと思い参加しました。

Q 実際に出荷してみてどうですか?

A 売れるとやはりとても嬉しいです。出荷したものが売れた時や美味しいと言ってくれる方がいると励みになります。

Q 参加してみてどうでしたか?

A 参加して良かったです。栽培方法によって野菜の味が全然違うことに驚きました。やはり露地栽培は自然の恵みいっぱいです。味がしっかりしていて美味しいです。

